

編集後記にかえて

倉橋 清方

一九八七年（昭和六十二年）七月に発足した「研究会」が六年目に入る。本誌「芸術研究」も第五号を発刊するまでになった。当初、その名称を「広島芸術学研究会」とすべきか「広島芸術学会」とすべきか、発起人の間ではさまざまな意見があった。それが結局「研究会」に落ち着いたのは、一人でも多くの賛同者を得て、芸術に対する地域の理解を深めようというところに最大の理由があったように思う。

事実、その後の活動内容は、決して世間でいう堅苦しい閉鎖的な「学会」といったイメージではなく、むしろ開放的でもしかも家庭的な雰囲気の中で事が運ばれている。つまり硬軟とりまぜた事業内容が「研究会」の特色となっているのである。ときに美しい音楽に耳を傾け、ときに美術談義に花を咲かせ、またあるときは文学や哲学の話題に熱中し、本誌のような論文発表にも手を染める。これが今の「研究会」の多彩な容貌である。

現在、「研究会」を「学会」にしようという動きがある。「研究会」の一層の発展を期してのことである。だが「研究会」のこの多彩さだけは、たとえ名称変更になっても不変であろう。五年前も今も「芸術に対する地域の理解を深める」ことに、いささかの変化もないからである。

本号では、各ジャンルから翻訳一編を含むあわせて五編の玉稿をお寄せいただいた。多忙の中でご執筆いただいた諸氏に厚くお礼を申し上げます。次第である。（くらはし・きよかた 広島県立美術館）

本号掲載論文中、西村、八田、出原、戸坂、フォーゲル、五氏の論文は、本研究会大会および例会に於ける口頭発表に基づくものである。

編集委員

青木 孝夫・大井 健地・大橋 啓一
香川不苦三・金田 晋・倉橋 清方
関府寺 司・齋藤 稔・幣原 映智
高木 茂登・八田 典子・水田 一征
出原 均・水島 裕雅

藝術研究

第五号

頒価一五〇〇円

平成四年七月二日 印刷
平成四年七月四日 発行

編集 広島芸術学研究会年報編集委員会

発行 広島芸術学研究会

〒730 広島市中区東千田町一―一八九
〒730 広島市中区国泰寺町二―五―二七
TEL 〇八二―二四六―八〇〇〇
TEL 〇八二―二四一―二二二七
(内線三六一九〇二四七七)

印刷 カシムラ社

〒730 広島市中区国泰寺町二―五―二七
TEL 〇八二―二四六―八〇〇〇